

4. 新聞等に掲載された活動

○生理学第二

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
篠原一之・教授	①嗅覚のサイエンス ②味覚のサイエンス	AERA With Baby 10月号 ①P14,15 ②P22,23	2011年 9月16日	「①どうしてできる？好きな匂い・嫌いな匂い。②いつからできる？おいしい・まずい」について掲載

○薬理学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中川慎介・講師 丹羽正美・教授	ファーマコセル、サル の血液脳関門in vitro 再構成系モデルを発売	Biotechnology Japan	2011年 3月14日	大学発ベンチャーの創業支援活動 知的財産の社会への還元

○病理学第一

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
千葉卓哉・准教授		西日本新聞	2011年 1月9日	アンチエイジング物質の探索に利用可能な遺伝子改変マウスの開発研究について掲載された。
下川 功・教授		Medical Tribune	2011年 2月17日	カロリー制限における転写因子FoxO1の機能解析について掲載された。

○感染分子解析学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
西田教行・教授 新 竜一郎・准教授 佐藤克也・講師	プリオン病の高感度 髄液診断法の確立	長崎新聞	2011年 1月31日	ヒトプリオン病の生前での確定診断には脳生検しかなかったが、新規髄液検査法を開発し、確定診断への道を開いた
西田教行・教授 新 竜一郎・准教授 佐藤克也・講師	プリオン病の高感度 髄液診断法の確立	日本経済新聞	2011年 1月31日	ヒトプリオン病の生前での確定診断には脳生検しかなかったが、新規髄液検査法を開発し、確定診断への道を開いた
西田教行・教授	プリオン病の高感度 髄液診断法の確立	朝日新聞	2011年 2月8日	ヒトプリオン病の生前での確定診断には脳生検しかなかったが、新規髄液検査法を開発し、確定診断への道を開いた
新 竜一郎・准教授	血液及び脳脊髄液中の プリオン検出の新開発	Nature Reviews Neurology	2011年 4月	Real-time quaking の方法について掲載された
西田教行・教授	クロイツフェルト・ヤ コブ病の新しい診断法	Highlighting JAPAN	2011年 10月	クロイツフェルト・ヤコブ病の新しい診断法について掲載された

○内科学第一

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
川上 純・教授	教授就任のご挨拶	長崎県医師会報 第781号	2011年 2月	
中村英樹・助教	長崎チーム巡回診療 同行ルポ	長崎新聞22面	2011年 4月12日	南相馬市原発20-30km圏内の屋内 退避地区における医療支援活動に ついて。
中村英樹・助教	密着レポート長崎大学 病院の医師の1週間	ポンペだより Vol.43 pp.2-3	2011年 8月	大学病院の医師は一般的な病院の 医師と違って、診療だけではなく 「研究」「診療」「教育」の3本 柱を担い、多忙な日々を送ってい ます。診療だけでは見ることがで きない医師の顔取材しました。
川上 純・教授	早期発症例の診断を見 極めるACR/EULAR新 分類基準	Medical Tribune	2011年 9月22日	第55回日本リウマチ学会での発表 抜粋
川上 純・教授	【関節リウマチ対談】 必要とする患者が、必 要な治療を受けられる 社会を目指して	日経メディカル	2011年 10月10日	
川上 純・教授	教授就任のご挨拶	朋百 Vol.122	2011年	
川上 純・教授	早期関節炎の前向きコ ホートを用いた2010 RA 分類基準の評価	オルソタイム ズ vol.5 (No.4)	2011年	第25回日本臨床リウマチ学会にて 発表
本村政勝・講師	【医科学研究所の紹介 共同研究】共同研究 成果報告会の開催報告	東京大学医科 学研究所ホー ムページ http://www.ims. u-tokyo.ac.jp/ims ut/jp/about/join tresearch/session- h22.php	2011年	平成23年2月22日(火)に共同研究成 果報告会を開催いたしました。教員 や学生のほか、共同研究拠点運営協 議会の委員にもご参加いただき、活 発に質疑応答が行われました。

○内科学第二

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	長崎大学病院 国際医 療センター開設 7月拓 成感染症、被ばく者治療	長崎新聞	2011年 1月3日	長崎大学病院・国際医療センター開 設の意義について地域社会に啓蒙 した
河野 茂・教授	うず潮 開院150年を迎 える長崎大学病院	長崎新聞	2011年 1月16日	長崎大学病院創立150周年の歴史と 今後について概説した
河野 茂・教授	メタボとがん予防専門医 ら講演 パネル討議 200人、知識深める 長崎 大学病院県民公開講座	長崎新聞	2011年 1月30日	長崎市民に対して、メタボリック シンドロームとがんの予防につい て啓蒙した
河野 茂・教授	うず潮 お年寄りと肺 炎	長崎新聞	2011年 2月18日	高齢者と肺炎の発症について啓蒙 した
河野 茂・教授	うず潮 長崎県と医療 崩壊	長崎新聞	2011年 3月24日	長崎県における医療の現状を概説 した
河野 茂・教授	東日本大震災 被ばく医 療・調査で被災地と連携	NHK	2011年 4月3日	東日本大震災と原発事故被災地へ の貢献について概説した

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	県内の研修医 初期研修スタート 定員充足 5割 確保依然厳しく	長崎新聞	2011年 4月11日	長崎大学病院における研修医の現状について概説した
河野 茂・教授	うず潮 福島医療支援に見た希望	長崎新聞	2011年 4月29日	東日本大震災と原発事故被災地への貢献について概説した
河野 茂・教授	医師確保へ助成拡充県や17病院が連携する「新・鳴滝塾」	長崎新聞	2011年 5月21日	「新・鳴滝塾」の創立と長崎県における研修医の状況について概説した。
河野 茂・教授	長大病院 ポリオ不活化ワクチン接種へ導入求めた保護者歓迎 専門医 国の行政戦略のなさ批判	長崎新聞	2011年 5月28日	長崎大学病院におけるポリオ不活化ワクチン接種の導入について概説した
河野 茂・教授	うず潮 ユッケとカルパッチョ	長崎新聞	2011年 6月5日	腸管出血性大腸菌による感染症について概説した
河野 茂・教授	うず潮 カビと病気	長崎新聞	2011年 7月2日	真菌症について概説した
河野 茂・教授	新人看護師の離職防げ 臨床研修 法改正で努力義務化	長崎新聞	2011年 8月1日	新人看護師の臨床研修義務化について概説した
河野 茂・教授	うず潮 夏バテと熱中症	長崎新聞	2011年 8月3日	熱中症について概説、予防について啓蒙した
河野 茂・教授	うず潮 長崎大学病院150周年	長崎新聞	2011年 9月3日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	長大病院は今 養生所から150年 7 組織改革で診療体制充実	長崎新聞	2011年 9月20日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	改革進め 新時代の医療研究拠点へ	長崎新聞	2011年 9月20日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	見んと 長崎 NHK 長崎大学病院150周年	NHK	2011年 9月20日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	KTN スーパーニュース 長崎大学病院150周年	KIN	2011年 9月20日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	news everyday 長崎大学病院150周年	NIB	2011年 9月20日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	報道センターNBC 長崎大学病院150周年	NBC	2011年 9月20日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	開院150年祝い記念碑養生所跡地の佐古小に長崎大学病院	長崎新聞	2011年 9月21日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	長崎大病院 記念碑を序幕 前進の養生所開院から150年	読売新聞	2011年 9月21日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	150周年記念しいのちの授業 長崎大病院	西日本新聞	2011年 9月21日	長崎大学病院創立150周年の歴史と今後について概説した
河野 茂・教授	うず潮 動脈硬化と高血圧	長崎新聞	2011年 10月7日	動脈硬化症と高血圧症について概説し、予防について啓蒙した

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	鳥越俊太郎 医療の現場 2011.11.05(土) 18:00～18:30 シーズン到来！しっかり予防！～インフルエンザ2011～	BS朝日	2011年11月5日	インフルエンザ感染症の診断、治療について概説、予防法について啓蒙した
河野 茂・教授	長大病院 震度6 想定医療実働訓練 患者受け入れ態勢など確認	長崎新聞	2011年11月12日	長崎大学病院における災害訓練、災害医療の取り組みについて概説した
河野 茂・教授	震度6を想定 災害医療訓練 長崎大病院で100人	朝日新聞	2011年11月12日	長崎大学病院における災害訓練、災害医療の取り組みについて概説した
河野 茂・教授	大地震想定し訓練「トリアージ」で医療FLASH NEWS	NIB	2011年11月12日	長崎大学病院における災害訓練、災害医療の取り組みについて概説した
河野 茂・教授	うず潮 肺がん撲滅デー	長崎新聞	2011年11月13日	肺がんの予後について概説した
河野 茂・教授	国際医療センター来月5日から稼働 長大病院関係者が完成祝う エボラ出血熱など1 類感染症対応	長崎新聞	2011年11月29日	長崎大学病院・国際医療センター開設の意義と役割について概説した
河野 茂・教授	長崎大病院 感染症や被ばく医療拠点医療センター完成	西日本新聞	2011年11月29日	長崎大学病院・国際医療センター開設の意義と役割について概説した
河野 茂・教授	KTN スピーク 長大病院に国際医療センター 重症の感染症にも対応	KTN	2011年11月29日	長崎大学病院・国際医療センター開設の意義と役割について概説した
河野 茂・教授	働く人とそのご家族のための健康講座感染症の予防と治療原因によって治療異なる感染症	日経産業新聞	2011年12月10日	感染症の予防と治療について概説した
河野 茂・教授	注意が必要な高齢者の肺炎新ガイドラインが始動 予防やワクチンも大事	神奈川新聞	2011年12月11日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	新ガイドライン始動呼吸器学会 分類変更し対策強化 高齢者の肺炎対策口腔ケアやワクチンを	琉球新報	2011年12月13日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	高齢者肺炎対策へ新指針「介護関連」分類を追加 口腔ケア、ワクチンで予防も	静岡新聞	2011年12月13日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	うず潮 身近な肺炎の話	長崎新聞	2011年12月13日	種々の肺炎について概説し、予防法を啓蒙した
河野 茂・教授	高齢者の肺炎対策と治療新ガイドラインで対応強化 予防やワクチンが重要	埼玉新聞	2011年12月14日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	肺炎で日本呼吸器学会 高齢者対策に力指針へ新分類追加 今後の適切な治療期待	宮崎日日新聞	2011年12月16日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	肺炎 学会が新ガイドライン 高齢になるほど危険 口腔ケア、ワクチンで予防	山形新聞	2011年 12月18日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	医療新世紀 高齢者の肺炎 対策を強化日本呼吸器学会が新ガイドライン 適切治療へ分類変更	山梨日日新聞	2011年 12月19日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	肺炎 高齢者の注意必要 新ガイドラインが始動 予防やワクチンも大事	日本海新聞	2011 年 12月22日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	呼吸器学会が新指針耐性菌増え「誤嚥性」も多発 高齢者の肺炎対策強化 口腔ケアとワクチンで予防を	神戸新聞	2011年 12月23日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
河野 茂・教授	すこやかゼミ 注意必要な高齢者の肺炎新ガイドラインが始動 予防やワクチンも大事	伊勢新聞	2011年 12月25日	新しい肺炎ガイドラインの紹介と内容について概説した
松瀬厚人・准教授	アレルギー談話室「カビとアレルギー」	九州朝日放送	2011年 5月22日	真菌とアレルギー、喘息の関係について説明した。
松瀬厚人・准教授	週刊健康マガジン 「COPD（慢性閉塞性肺疾患）ってどんな病気？」	テレビ長崎	2011年 6月3日	COPDの病態について解説した。
松瀬厚人・准教授	週刊健康マガジン 「COPD（慢性閉塞性肺疾患）の早期発見」	テレビ長崎	2011年 6月10日	COPDの早期診断の重要性について説明した。
松瀬厚人・准教授	今日の健康「せきの原因」	NHK	2011年 10月10日	成人の慢性咳嗽の原因について解説した。
松瀬厚人・准教授	今日の健康「早めに対処 せき喘息」	NHK	2011年 10月12日	咳喘息の診断と治療について概説した。
松瀬厚人・准教授	ここが聞きたい名医に Q「あなどるな！長引くせき」	NHK	2011 年 11 月5 日	成人の慢性咳嗽の中でアレルギーが原因のものについて説明した。
松瀬厚人・准教授	ここが聞きたい名医に Q「長引くせき あなたの疑問に答えます！」	NHK	2011年 11月12日	咳嗽に関する視聴者からの質問に回答した。
松瀬厚人・准教授	シリーズ感染症プライマリケア「喘息と感染症」	Medical Tribune	2011年 12月15日	感染症と気管支喘息の関連について解説した。
福島千鶴・准教授	週刊健康マガジン 「COPD(慢性閉塞性肺疾患)の治療」	テレビ長崎	2011年 6月17日	COPDの治療について解説した。
山本善裕・准教授	健康「インフルエンザは予防が大事」	そよかぜ	2011年 9月30日	インフルエンザの予防について概説した
西野友哉・講師	慢性腎臓病について	NBCあっ！ぷる	2011年 10月6日	慢性腎臓病の診断・治療について啓蒙した

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
河野哲也・助教	週刊健康マガジン、 「COPD（慢性閉塞性 肺疾患）の原因は喫煙」	テレビ長崎	2011年 6月24日	COPDの原因について解説した。

○消化器内科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
磯本 一・准教授	ヘリコバクターピロ リ胃発癌のメカニズム	ラジオNIKKEI	2011年 2月18日	ヘリコバクターピロリの胃発癌のメカニズムに関する研究成果のラジオ講演
磯本 一・准教授 山口直之・助教	手術数でわかるいい病院 食道癌内視鏡治療	週刊朝日	2011年 3月10日	食道癌内視鏡治療が全国でトップレベルの評価
市川辰樹・准教授	震災の地で～長崎大活動記～	長崎新聞	2011年 5月13日	
市川辰樹・准教授	郡市医師会だより「長崎大学医師会」 医療を東日本大震災の地へ 孤立地域をオール長崎で支える	長崎県医師会報 第785号	2011年 6月	
大仁田 賢・講師 塩澤 健・助教	長崎新聞健康セミナー 2011 大腸がんをよく知ろう！	長崎新聞	2011年 7月23日	大腸がんの内視鏡治療、化学療法についての講演
竹島史直・准教授	便秘で悩んでいませんか？	NBC長崎放送	2011年 9月20日	便秘の機序、対処法に関して解説した
市川辰樹・准教授	健康テレホンサービス 「あなどれない脂肪肝」	長崎県保険医協会	2011年 11月	
竹島史直・准教授	クローン病に対するアダリムマブの治療効果	CCJAPAN	2011年 12月26日	クローン病に対する新しい治療効果に関する発表が紹介された

○循環器内科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
前村浩二・教授	新春インタビュー狭心症・心筋梗塞 最新の診断と治療	西日本新聞	2011年 1月1日	狭心症・心筋梗塞の症状、検査法とその予防法、治療法を一般向けに解説した内容である

○精神神経学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
小澤寛樹・教授	寄稿	長崎新聞	2011年 5月2日	平成23年3月11日発生の東日本太平洋沖地震の被害を受け「被災者にできること」を念頭におき、「傾聴」することの大切さ、特に被災地の人々が一番望んでいることを想像する能力を持つことの必要性を述べた。
小澤寛樹・教授	社会貢献・報道	NHK放送局 (長崎県) (福島県)	2011年 5月3日	平成23年3月11日発生の東日本太平洋沖地震の被害を受け福島県で医療支援を行った。被災者支援の在り方を示すとともに継続的な支援の必要性和被災者への理解を求める活動が報道された。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
木下裕久・講師	「被爆地の医師」尽力	読売新聞	2011年 5月20日	福島県における長崎大学病院の医師らの医療支援の取り組みの記事。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 6月6日	映画作品を通して精神医学を身近に感じ、内面の攻撃性の処理課題と向き合う方法を示した。題材に「沈まぬ太陽」を挙げ、家族機能と精神科医のかかわり方の理解を深める活動を行った。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	月刊 PRESIDENT 2011年8.1号	2011年 7月11日	映画作品を通してメンタル管理への役立て方、考え方が掲載された。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 8月1日	映画作品を通して精神医学を身近に感じ、障害を持つ子と親の関係性を考える機会を持つ必要性を提起した。「マラソン」を題材に挙げ家族機能と精神科医とのかかわり方への理解を深める活動を行った。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 9月5日	映画作品を通して精神医学を身近に感じ、障害と向き合う方法を示した。題材に「モーツアルトとクジラ」を挙げ、大人の発達障害への理解を深める活動を行った。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 10月3日	映画作品を通して精神医学を身近に感じ、「折り梅」を通して認知症への理解を深める活動を行った。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 11月7日	映画作品を通して精神医学を身近に感じ、精神病には徐々に進んで見過ごしやすい変調があることを示した。「ブラック・スワン」を題材に精神病の発症直前の様子を考察し、精神病への理解を深める活動を行った。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 12月5日	精神医学を身近なものとしてとらえることができるよう映画作品を通して理解を深める活動を行った。「食堂かたつむり」を題材に食と心の関係を述べた。
小澤寛樹・教授	シネマサイキアトリー	長崎新聞	2011年 2月6日	映画作品を通して精神医学を身近なものとしてとらえることができるよう「英国王のスピーチ」を題材取り上げ精神医学領域における回復の可能性を紹介した。

○小児科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
森内浩幸・教授	ポリオ不活化ワクチン 予防接種	長崎新聞	2011年 5月28日	

○外科学第一

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
澤井照光・准教授	市民公開講座 大腸がんをよく知ろう！	長崎新聞	2011年 7月12日	県民を対象とした大腸癌診療の解説
澤井照光・准教授	結腸癌に対する術後 補助化学療法の実状	Medical Tribune	2011年 12月15日	医療従事者に対する大腸癌治療の解説
澤井照光・准教授	実力医の履歴書～外科 系 I	病院なび (専門医なび)	2011年 12月より	携帯サイトにおける診療内容の案内

○外科学第二

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
江口 晋・教授	移植と再生	長崎新聞	2011年 9月15日	肝移植150例を記録し、肝移植についてと再生医療について述べた。
曾山明彦・助教	HIV/HCV重複感染者における肝機能フォローアップの重要性	長崎エイズ診療ネットワーク	2011年	HIV/HCV重複感染者における肝機能フォローアップの重要性を述べた。

○整形外科

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮本 力・助教	関節リウマチに対するセメントレス人工膝関節置換術	メディカルトリビューン	2011年 5月26日	関節リウマチに対するセメントレス人工膝関節の中期成績を調査し、良好な結果が得られた。

○皮膚科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
竹中 基・講師	「皮膚の日」に寄せて じんましんあれこれ	長崎新聞	2011年 10月17日	原因不明な症例が多い蕁麻疹の症状と、治療法について解説
小川文秀・講師	「皮膚の日」に寄せて 膠原病の皮膚病変	長崎新聞	2011年 10月17日	膠原病の皮膚病変による様々な症状を解説し、早期発見、早期治療の重要性について啓発した

○泌尿器科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮田康好・講師	治療抵抗性再発尿路癌に対する低用量ゲムシタビン+パクリタキセルの地域連携外来治療で効果 【癌治療学会2011】	日経メディカルオンライン http://medikal.nikkeibp.co.jp/leaf/all/gakkai/sp/jsco2011/210000/522245.html	2011年 11月2日	学会スペシャル：第49回日本癌治療学会学術集会

○眼科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
隈上武志・講師	花粉症～ 目の症状と対策～	KTN テレビ長崎 週刊 健康マガジン	2011年 2月25日	花粉症について解説

○耳鼻咽喉科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高崎賢治・講師	よかトコよかモン探訪	西日本新聞	2011年 2月24日	平戸・大島村にて県外の花粉症患者を対象に避粉地ツアーを行い、誘客を図る活動を行っている。
高崎賢治・講師	離島はいま-振興法期限切れを前に-	長崎新聞	2011年 2月27日	平戸・大島村にて県外の花粉症患者を対象に避粉地ツアーを行い、誘客を図る活動を行っている。
高野 篤・講師	知っているようで知らない鼻血	西日本新聞	2011年 6月29日	意外に知られていない鼻出血の対処法について紹介した。

○放射線医学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
伊東昌子・准教授	男性も、女性も生き生き活躍できる職場作りを考える	西日本新聞	2011年 1月1日	女性医師就労に関する社会的啓蒙
伊東昌子・准教授	骨質評価の将来展望「皮質骨構造と骨強度」	健骨隆々	2011年 4月1日	骨粗鬆症に関する社会的啓蒙
伊東昌子・准教授	いきいき活躍し続けるためのキャリアマネジメント&ライフサポート	研修医通信	2011年 10月1日	女性医師就労に関する社会的啓蒙
伊東昌子・准教授	椎体骨折判定基準の改訂に向けて	Meidical Tribune	2011年 10月20日	骨粗鬆症に関する社会的啓蒙

○産科婦人科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
増崎英明・教授	T細胞白血病ウイルス	読売新聞	2011年 1月4日	長崎県のT細胞白血病ウイルス予防の取り組みについて掲載された。
増崎英明・教授	出生前診断	NBCテレビ	2011年 3月4日	出生前診断について解説
増崎英明・教授	ダウン症出生前診断テーマ	長崎新聞	2011年 3月7日	市民公開講座における出生前診断に関するディスカッションについて。
増崎英明・教授	ダウン症の出生前診断	長崎新聞	2011年 3月16日	ダウン症の出生前診断について解説。
増崎英明・教授	ATLの予防や治療の現状学ぶ（長崎大学医学部で講演会）	長崎新聞	2011年 3月31日	ATL ウイルス母子感染予防に関する講習会について掲載された。
増崎英明・教授	HTLV-1白血病ウイルス公費で検査	朝日新聞	2011年 7月7日	HTLV-I 母子感染について解説

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
増崎英明・教授	HTLV-1 対策元年 母乳以外の母子感染 長崎の妊婦3万人調査厚労省、本年度から	西日本新聞	2011年 10月26日	長崎県のT細胞白血病ウイルス予防の取り組みについて掲載された。
増崎英明・教授	長崎県協に保健文化賞 厚労省など A T L 対策を評価	西日本新聞	2011年 10月26日	長崎県の長年にわたるT細胞白血病ウイルス予防の取り組みが保健文化賞を受賞したことについて掲載された。

○麻酔学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
北條美能留・助教	在宅の緩和ケア普及	読売新聞	2011年 6月29日	緩和ケア普及のための地域プロジェクト

○脳神経外科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
永田 泉・教授	脳ドック異常が見つかったら「頸動脈狭さく症」	NHK	2011年 8月15日	
永田 泉・教授	急性期から慢性期にかけての非心原性脳梗塞治療を考える	Medical Tribune	2011年 9月22日 特別企画	
永田 泉・教授	急性期から慢性期にかけての非心原性脳梗塞治療を考える	Medical Tribune	2011年 10月13日 特別企画	
永田 泉・教授	勝手に服用中止 脳梗塞では厳禁	長崎新聞	2011年 11月28日	「脳梗塞アカデミー長崎大会」で脳梗塞の再発予防を呼びかける。
堀江信貴・助教	もやもや病 脳循環動態の解析進む	Medical Tribune	2011年 2月3日 Vol.44 (5) p.19	

○形成外科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
秋田定伯・講師	サントペテルブルク 卒後教育医学アカデミー【客員教授】としての称号を授与	長崎大学病院 website、長崎大学医歯薬学総合研究科 website、長崎大学グローバルCOE プログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」 website		姉妹校締結に基づく、学術的交流活動振興

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
秋田定伯・講師	自家脂肪組織由来幹細胞移植 電子線照射後のケロイド治療にも有用	Medical Tribune	Vol. 44, 37: 45, 2011	
秋田定伯・講師	孫の治療法、急いで「混合型血管奇形」難病指定打って手記	西日本新聞	2011年12月26日	厚生労働省「難治性血管腫・血管奇形についての調査研究」の内容紹介と医療的情報提供

○心臓血管外科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
江石清行・教授	心臓手術支えるチーム医療	長崎新聞	2011年5月16日	心臓手術後のリハビリ・食事などの最先端ケア提供について紹介した。

○臨床検査医学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
上平 憲・教授	成人T細胞白血病(ATL)とはどんな病気？	朝日新聞	2011年10月25日	母子感染対策と新しい治療への期待、母子感染に対する啓蒙

○総合診療学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
門田耕一郎・助教	第2回禁煙デーイベント in ながさき	朝日新聞5月30日第10版27面	2011年5月30日	WHO世界禁煙デーに合わせて長崎でも禁煙支援に関する市民への啓発を目的にイベントを行い、実行委員長として新聞記事に掲載された。

○医療情報学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
本多正幸・教授	医療・介護関連分野における規制改革・産業創出実証事業	西日本新聞	2011年2月15日	対馬地域における地域見守りの紹介記事
松本武浩・准教授	あじさいネット	日経新聞取材	2011年2月9日	あじさいネット紹介の記事
松本武浩・准教授	病院と診療所 ITを使い連携	長崎新聞	2011年5月24日	病院と診療所ITで結ぶ「あじさいネット」の紹介記事
松本武浩・准教授	長大病院は今「養成所から150年」ー地域医療ー「ITで患者情報の共有も」	長崎新聞	2011年9月19日	長崎大学病院では「あじさいネット」に参加し、ITで患者情報の共有をお粉手いる
松本武浩・准教授	地域医療IT 連携 価値と可能性	病院新聞	2011年8月25日	全国自治体病院協議会九州地方会議にて「地域医療IT 連携の価値～あじさいネットにおける自治体病院の役割～」のテーマで講演発表した内容が掲載され、長崎における「あじさいネット」の活動が紹介された

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
松本武浩・准教授	病院とかかりつけ医IT 活用し情報共有	山陰中央新報	2011年 10月6日	松江市にて「あじさいネットの利点」 について講演した内容が掲載され、 長崎における「あじさいネット」の 活動が紹介された

○社会医学部門 健康リスク管理学研究分野（原研リスク）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
	【西方見聞録】不安ふっ しよくへ知識広める動 き 県などが講座	朝日新聞	2011年 3月2日	長崎県や長崎市、長崎大でつくる 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 （NASHIM）は2007年から、放射 線の基礎知識を教える出前講座を 開いている。
ウラジミール サエンコ・助教	経験 フクシマの力に	西日本新聞	2011年 4月26日	「蓄積してきた知識と経験を生か したい」長崎大で小児甲状腺がん と放射線の影響を研究する。
	4ヵ国医師ら 副市長 を表敬 カザフなど 医師6人	長崎新聞 読売新聞 毎日新聞	2011年 7月27日、 29日	ナシムが、国際貢献事業の一環で 招いた。長崎大や放射線影響研究 所などで研修する。
ウラジミール サエンコ・助教	ロシアで原爆展開幕	西日本新聞 長崎新聞	2011年 8月30日	ロシアでの原爆展のため尽力した。

○社会医学部門 国際保健医療福祉学研究分野（原研国際）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	震災の地で 長崎大活 動記(放射線リスク)	長崎新聞	2011年 5月12日	「放射線健康リスク管理アドバイザー」として福島県民の方々に 「放射線と健康」について理解を 深めてもらう。
高村 昇・教授	放射線知識の普及へ	読売新聞	2011年 5月25日	日本非核協総会で、会員自治体な どに、放射線に関する知識の普及 を進める説明をした。
高村 昇・教授	支援活動で体内被曝	朝日新聞	2011年 6月6日	原子爆弾後障害研究会で、原発作 業員以外の体内放射能の測定結果 が、初めて明らかになったことが 発表された。
高村 昇・教授	被曝なくても心理的負 担	朝日新聞	2011年 6月6日	正しい放射線の知識の提供や心の ケアで、心理的負担を未然に防ぐ 必要がある。
高村 昇・教授	福島滞在者の内部被曝、 ヨウ素9割、セシウム2割 弱	M3.com(ネット) 医療維新	2011年 6月6日	震災直後、福島県に滞在した人の 体内放射能を測定した結果、検出 された放射性ヨウ素131、放射性セ シウム137のいずれも、震災直後の 滞在中では高かったが、時間を経 るごとに低下した。
高村 昇・教授	放射線被ばくや原発事 故を語る	読売新聞	2011年 6月7日	「長崎・チェルノブイリから福島 を学ぶ」と題して、チェルノブイ リ原発事故後、子供たちに甲状腺 がんが増加した実態や、福島原発 事故との比較などについて講演。
高村 昇・教授	被爆者健康講話	長崎新聞	2011年 6月8日	6月16日より毎月1回 平成23年度の被爆者健康講話を開講。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	福島県放射線健康リスクアドバイザーとして 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授・高村 昇氏に聞く	M3.com(ネット) 医療維新	2011年 6月9日	マスコミ情報では対応できない個々の悩みに応える。
高村 昇・教授	今、一番切実なのは風評被害の問題 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授・高村 昇氏に聞く◆Vol.2	M3.com(ネット) 医療維新	2011年 6月12日	我々は、個々人が判断するための科学的知見を提示
高村 昇・教授	チェルノブイリと福島で医療 長大・高村教授が講話	長崎新聞	2011年 6月17日	「被爆者健康講話」にて、チェルノブイリの研究を踏まえて福島の現状を紹介。
高村 昇・教授	放射線 子どもの保護 訴え 長崎大学大学院教授が講演	読売新聞	2011年 6月17日	核と向き合うナガサキ2011 「被爆者健康講話」にて、「放射線感受性が強い子どもを守らなければ」と訴えた。
高村 昇・教授	内部被ばく今後も注意 YMC郡山セミナー	福島民友	2011年 7月21日	国や地方自治体、医療が一体となりメンタルケアを行い、県民の健康を守るシステムの立ち上げが重要。
高村 昇・教授	現地の若い医師を育成 チェルノブイリを語る	長崎新聞	2011年 7月25日	福島原発事故で、食物に放射性物質の暫定基準値を設けて出荷制限が行われた。
高村 昇・教授	放射線がおよぼす人体への影響 目にみえない恐怖	ナガサキピース・タイムズ	2011年 8月9日	放射線の人体への影響について語る
高村 昇・教授	放射線物質 最新情報を紹介	福島民報	2011年 8月11日	チェルノブイリ原発事故による住民の被ばく状況や健康影響を報告。当初、懸念されていた白血病の発症について、小児、成人共に増加傾向は認められない。
高村 昇・教授	放射線 正しい知識を市場関係者が講演会	長崎新聞	2011年 8月22日	放射線による食物汚染について学ぶ講演会「放射線被ばくと食品、青果物」が中央卸売市場であった。
高村 昇・教授	放射線の知識 青果業者学ぶ	朝日新聞	2011年 8月22日	青果物の卸・小売業者を対象にした放射線と健康への影響についての講演会が中央卸売市場であった。
高村 昇・教授	市場関係60人 放射線を学ぶ 「風評被害防ごう」	西日本新聞	2011年 8月22日	福島第一原発の事故に伴う農産物などの風評被害を防ごうと、中央卸売市場で放射線の講演会が開かれた。
高村 昇・教授	「基準値以下なら大丈夫」	毎日新聞	2011年 8月22日	福島第一原発の事故に伴う農産物などの風評被害を防ごうと、中央卸売市場で放射線の講演会が開かれた。
高村 昇・教授	ガラスバッジの活用法は市町村の説明不可欠 数値の解釈 県が支援を	福島民報	2011年 10月6日	個人積算線量計(ガラスバッジ)の結果に基づき、自治体が生活面のアドバイスを必要性などを指摘した。
高村 昇・教授	全国に知識普及必要	福島民報	2011年 10月22日	住民に直接対応する立場にある全国の自治体に放射線に関する知識を普及させる必要を強調した。

○社会医学部門 放射線災害医療学研究分野（原研医療）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	【知の先端】「負の遺産」生かす	読売新聞	2011年 2月8日	遺伝子研究について
	【西方見聞録】不安ふっしょくへ知識広める動き 県などが講座	朝日新聞	2011年 3月2日	県や長崎市、長崎大でつくる長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM)は2007年から、放射線の基礎知識を教える出前講座を開いている。
山下俊一・教授	松浦市は玄海原発10キロ圏「ひとごとではない」	西日本新聞	2011年 3月13日	防災体制について見直しの必要性について
山下俊一・教授	被爆者ら非難や不安福島原発爆発「背筋凍る」	読売新聞	2011年 3月13日	福島原発周辺で観測された放射線量などについて説明した。
山下俊一・教授	「被爆地医師」の役割大きい 福島原発の爆発で長崎の専門家	長崎新聞	2011年 3月14日	被爆地広島、長崎の医療チームを派遣し、活動させる重要性を指摘した。
山下俊一・教授	パニック起こさないで	読売新聞	2011年 3月16日	福島原発事故について
山下俊一・教授	期待される先進被ばく医療	毎日新聞	2011年 3月16日	冷静な対応を呼び掛け、「今後被ばくした人の処置、後遺症や精神的ダメージへの対処が大切」と指摘した。
山下俊一・教授	水道水に微量放射性物質	西日本新聞 長崎新聞	2011年 3月17日	「正しい情報に基づき冷静に行動することが大事だ」と呼び掛けた。
山下俊一・教授	周辺で高レベル放射線	朝日新聞	2011年 3月17日	ヨウ素やセシウムの人体への影響について
山下俊一・教授	放射能 体への影響は	朝日新聞	2011年 3月17日	チェルノブイリでの健康影響について
山下俊一・教授	被曝者医療の経験現地へ	読売新聞	2011年 3月17日	「国民全体で放射線に正しい知識を持ち、冷静な対応を心掛けることが大事」と訴えている。
山下俊一・教授	出荷中の農産物、心配ない	朝日新聞	2011年 3月18日	福島第一原発事故の影響について
山下俊一・教授	長崎大 山下教授を福島に派遣	長崎新聞 読売新聞	2011年 3月18日	福島県へ派遣。放射能に関する正しい知識を提供する活動に取り組む予定。
山下俊一・教授	チェルノブイリで医療従事の専門家らを福島県アドバイザーに	産経新聞 スポニチ	2011年 3月19日	放射線と健康に関する正しい知識を住民へ提供。
山下俊一・教授	長大・山下教授を派遣	毎日新聞	2011年 3月19日	福島第一原発事故支援のため、福島県へ派遣。
山下俊一・教授	放射線管理アドバイザーを委嘱	KFB福島放送 産経新聞 福島民友	2011年 3月20日	福島県災害対策本部より、放射線健康リスク管理アドバイザー委嘱放射線、正しい知識を助言
山下俊一・教授	福島県災害対策本部、環境放射能の人体への影響についてのQ&Aを公開	Impress Watch	2011年 3月21日	記者会見における内容をとりまとめ、「環境放射能が人体に及ぼす影響等について」というQ&AをPDFで公開した。
山下俊一・教授	長崎大教授「健康リスクない」福島市の空間放射線量	共同通信 時事通信 朝日新聞	2011年 3月21日	「放射線健康リスク管理アドバイザー」、福島市内で約500人の市民を前に講演。今後も県内各地で情報提供に取り組む。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	正しく怖がること 必要	朝日新聞	2011年 3月21日	福島第一原発の事故による影響で、何に注意すべきか。
山下俊一・教授	福島県、専門家招き情報提供 放射線影響について客観データ	電気新聞 読売新聞	2011年 3月21日	「放射線健康リスク管理アドバイザー」を委嘱
山下俊一・教授	放射線リスク 過度の反応戒め	福島民報 毎日新聞	2011年 3月21日	いわき市で20日、放射線リスクを正しく理解するための講演会を開催。
山下俊一・教授	福島原発「20キロ圏外は安全」被ばく医療の専門家	長崎新聞	2011年 3月22日	東京都内で記者会見し、過度に不安にならないよう呼び掛けた。
山下俊一・教授	【被災と日常生活】回復の鍵はマンパワー	福島民報	2011年 3月22日	風評被害について、いわき市で講演した。
山下俊一・教授	水道水は乳児向けの厳しい基準	産経ニュース	2011年 3月23日	水道水の摂取制限について
山下俊一・教授	ヨウ素は尿で排出 セシウムは筋肉蓄積も心配低い	産経ニュース	2011年 3月23日	福島県産の野菜から、放射性ヨウ素やセシウムが暫定基準を大きく上回る数値で検出されたことについて、冷静な対応を求める。
山下俊一・教授	東日本大震災：放射線の蓄積注視を	毎日新聞	2011年 3月23日	福島市の累積放射線量について
山下俊一・教授	「支援は被爆地の責務」	西日本新聞	2011年 3月24日	大学病院で説明会今後の支援継続の重要性訴える。
山下俊一・教授	偏見などが放射線恐怖症に	長崎新聞 読売新聞 毎日新聞	2011年 3月24日	「放射線健康リスク管理アドバイザー」として、活動内容を説明。
山下俊一・教授	今の放射線は本当に危険レベルか、ズバリ解説しよう	日経ビジネス オンライン	2011年 3月24日	東京電力福島第一原発事故の影響について見解を示した。
山下俊一・教授	インタビュー	長崎新聞	2011年 3月25日	東京電力福島第一原発事故の今後の見通しについて
山下俊一・教授	福島県立医科大、放射線研究で広島・長崎大と連携協定	朝日新聞 読売新聞 毎日新聞	2011年 4月2日、3日	福島県立医科大より理事長付特命教授に任命された。
山下俊一・教授	土壌・汚染基準明確に	読売新聞	2011年 4月3日	福島第一原発から北西約40キロ地点の土壌から高濃度の放射性物質が検出されたとのIAEAの指摘について、説明した。
山下俊一・教授	原発や被曝について正しい理解を 日本財団がシンポジウム	産経ニュース 日経メディカル オンライン 毎日新聞	2011年 4月5日	シンポジウム「福島原発事故～誰にでもわかる現状と今後～」で、チェルノブイリ原発事故と福島原発事故を比較し、講演した。
山下俊一・教授	被災地派遣、長大2教授が報告	毎日新聞	2011年 4月8日	長崎大医学部で開かれた報告会で、「“正しく怖がる”ことが重要」と訴えた。
山下俊一・教授	電話インタビュー	NHKワールド	2011年 4月9日	東日本大震災 最新情報について
山下俊一・教授	多重被災②放射線、終わり見えぬ不安	日本経済新聞	2011年 4月13日	「官邸の情報の一元化、国際機関の監査が必要」と提案した。
山下俊一・教授	何が危険？ どうすれば安心？ 広がる放射線の不安	NHK ニュース深読み	2011年 4月16日	放射性物質は何が危険で、どうすれば安心できるのか、長年放射線被害の研究の携わってきた専門家として出演。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	動き出す 被ばく医療 長崎と福島との連携 (下)	長崎新聞	2011年 4月23日	放射線について講話。継続的な環境と健康のモニタリング調査の必要性を訴える。
柴田義貞・特任教授	「福島とチェルノブイリ、多くの共通点」 農水副大臣	朝日新聞	2011年 4月22日	分科会で東電の対策不足を説明。また住民の精神的ケアの重要性を指摘した。
山下俊一・教授	「肖像」放射線への恐怖 対話で払拭	日本経済新聞	2011年 4月23日	放射性物質漏洩におびえる住民の元を訪ね、対話を通じて恐怖心の払拭に努める。
山下俊一・教授	放射能正しい知識、 情報伝達を	公明新聞	2011年 4月23日	「国際原子力事象評価尺度の暫定評価、健康への影響、放射能への備え」などについて説明した。
ログノビッチ タチアナ・助教	経験 フクシマの力に	西日本新聞	2011年 4月26日	「蓄積してきた知識と経験を生かしたい」長崎大で小児甲状腺がん と放射線の影響を研究する。
	福島県立医科大副理事 長ら 長崎大で被ばく 医療視察	西日本新聞 長崎新聞 日本経済新聞 毎日新聞	2011年 4月27日	福島第1原発事故をきっかけに、 被ばく医療分野で実績がある長崎 大と協定を結んだ福島県立医科大 の関係者が、訪れた。
柴田義貞・特任教授	福島避難民 心理ケア 必要	長崎新聞	2011年 4月27日	福島第1原発事故後の住民避難な どの対応のあり方について
山下俊一・教授	放射線とからだ 上	日本経済新聞	2011年 5月8日	外部被曝と内部被曝について解説
山下俊一・教授	情報災害 福島を翻弄	長崎新聞	2011年 5月12日	福島県の現状について
山下俊一・教授	放射線の理解 シンポ で訴え	西日本新聞 朝日新聞 長崎新聞 日本経済新聞	2011年 5月21日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 主催「長崎から福島へ」シンポジ ウムで講演。
山下俊一・教授	原発周辺15万人、30年 調査 放射線の影響追 跡	朝日新聞 福島民報 日本経済新聞 毎日新聞 西日本新聞 読売新聞	2011年 5月26日、 27日、28日	福島県が発足する「県民健康管理 調査検討委員会」の委員長に就任 する。
山下俊一・教授	長崎 平和宣言委が初 会合	朝日新聞	2011年 5月29日	平和記念式典で読み上げる平和宣 言文の内容を練る起草委員会で、 被爆地の経験を復興に生かす役割 を説いた。
山下俊一・教授	全球場で線量測定 夏の高校野球	福島民報	2011年 6月2日	第93回全国高校野球選手権福島大 会前に、測定する各支部員らを対 象とした研修会を開く。
山下俊一・教授	「広島・長崎の研究成 果を」原爆症研究者ら	朝日新聞 長崎新聞	2011年 6月5日、6日	広島で開催された原子爆弾後障害 研究会で、全国の専門家が結集し て啓発に努める必要性を説いた。
山下俊一・教授	福島の県民被ばく調査	西日本新聞 長崎新聞	2011年 6月6日	検討委員会の座長を務め、「世界 が注目する調査」と話す。
山下俊一・教授	二つのヒバク地 福島 と長崎 下	西日本新聞	2011年 6月16日	「正確なデータに基づき、正しく怖 がる」根拠のない、過剰な心配を戒める。
山下俊一・教授	長崎ヒバクシャ協力が 会がシンポ	西日本新聞	2011年 6月16日	「福島原発事故と放射線健康リスク」 の題で講演した。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	福島 放射線測定の日々	朝日新聞	2011年 6月16日	放射線の測定値について助言した。
山下俊一・教授	福島第1原発：住民2万8000人対象に被ばく線量推計	毎日新聞	2011年 6月18日	「早急な健康管理が必要」と説明した。
山下俊一・教授	山下・長大教授 福島へ	毎日新聞 西日本新聞 中國新聞 長崎新聞 毎日新聞 福島民報	2011年 7月8日、 9日、14日	福島県立医科大学に出向し副学長に就任する見通しになった。健康調査や大学での人材育成に取り組む。
山下俊一・教授	「広島、長崎の英知結集」	長崎新聞 読売新聞 福島民報 福島民友 毎日新聞 朝日新聞	2011年 7月16日	県放射線健康リスク管理アドバイザーを務める長崎大教授の山下俊一と広島大教授の神谷研二氏は、15日付で福島県立医大副学長に就任し、福島県庁で記者会見した。
山下俊一・教授	18歳以下に甲状腺検査	福島民報 福島民友 長崎新聞 読売新聞 西日本新聞	2011年 7月25日、 26日	福島県が行う健康調査の概要について
山下俊一・教授	甲状腺検査 県外避難者への態勢 課題	福島民報	2011年 7月25日	福島県の内部被ばく線量の基準について
	4ヵ国医師ら 副市長を表敬 カザフなど医師6人	長崎新聞 読売新聞 毎日新聞	2011年 7月27日、 29日	ナシムが、国際貢献事業の一環で招いた。長崎大や放射線影響研究所などで研修する。
山下俊一・教授	福島へ 被爆地長崎の思い⑤	長崎新聞	2011年 8月3日	福島復興にむけて
山下俊一・教授	原発と向き合う 3・11後のナガサキ④	西日本新聞	2011年 8月7日	福島県での健康管理調査について
山下俊一・教授	被曝医療の蓄積、福島を支援 長崎、医師ら200人派遣	日本経済新聞	2011年 8月9日	震災直後から、住民への啓蒙活動などを続けている。
山下俊一・教授	放射線不安払拭へ提言 来月11、12日の福島国際会議	福島民報	2011年 8月17日	会議の狙いについて説明。さらに放射線の研究拠点を目指す福島医大と専門家との交流のスタートにも期待を寄せた。
山下俊一・教授	臨機応変に判断を災害医療考えるシンポ	西日本新聞	2011年 8月28日	災害医療のあり方を考える第5回県民公開医療シンポジウム「みんなで語ろう災害医療」で講演した。
山下俊一・教授	ひと	朝日新聞	2011年 9月1日	全県民を対象にした健康管理調査に取り組む。
山下俊一・教授	朝日がん大賞に山下氏	朝日新聞	2011年 9月1日	チェルノブイリ原発事故後の子どもの甲状腺がんの診断、治療や福島第一原発事故による福島県民の健康調査や被曝医療への取り組みが評価された。
	「県民被ばくリスク低い」福島で放射線の専門家国際会議	福島民報 福島民友	2011年 9月13日	東京電力福島第一原発事故を受け、世界14カ国、2国際機関の放射線医学や放射線防護学の専門家による国際会議が開かれた。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
	放射線健康リスク 専門家が意見交換 長崎大でシンポ	毎日新聞 読売新聞 長崎新聞 西日本新聞	2011年 10月21日	国内外の専門家が研究成果を発表した。福島第一原発事故後の健康リスク管理についても議論を深める。
山下俊一・教授	国連欧州本部に原爆コーナー	毎日新聞 長崎新聞	2011年 11月12日	スイス・ジュネーブの国連欧州本部での、長崎・広島の前爆関係資料の展示コーナーの設立について
山下俊一・教授	放射線不安解消へ 門家の養成強調	長崎新聞	2011年 12月11日	長崎県立シーボルト校で、学術講演会があり「福島原発事故の健康リスク管理」と題して講演した。
	韓国人医師2人 NASHIMで研修	長崎新聞	2011年 12月20日	「より専門的な知識を韓国に持ち帰りたい」と語った。

○放射線生命科学部門 人類遺伝学研究分野（原研遺伝）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
吉浦孝一郎・教授 木下 晃・講師	アメリカ科学アカデミー紀要に掲載された論文内容が紹介された	長崎新聞 西日本新聞 産経新聞	8月17日 8月17日 8月19日	長年研究してきた中條一西村症候群の原因遺伝子が単離されたことを論文として発表し、内容が新聞で紹介された。研究内容を社会に分かりやすく伝えることが出来た。

○原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野（原研内科）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
塚崎邦弘・准教授	みのもんだ朝ズバ生出演！浅野史郎さん白血病闘病1年7カ月	TBS	2011年 1月5日, 1月7日	前宮城県知事浅野史郎氏が自身がATL（成人T細胞白血病）の闘病中であること告白されたことを受け、ATLとはどういった疾患であるのか、どういった研究が現在なされているのか、学識経験者の立場から意見を述べた。
塚崎邦弘・准教授	『報道センターNBC』母乳に潜むウイルスをめぐって	NBC（長崎放送）	2011年 1月13日(木) 18:15-	HTLV-1ウイルスによるATLの予防と治療について述べた。
塚崎邦弘・准教授 他	官邸のHTLV-1特命チーム	NHK ニュース 朝日新聞	2011年 1月20日(木) 1月21日(金)	官邸特命チームによるHTLV-1特命対策方針を協議した。
塚崎邦弘・准教授 他	『ATL 感染予防治療で意見交換』福岡でシンポ	長崎新聞	2011年 2月28日(月)	主に母乳を介して母子感染し、成人T細胞白血病(ATL)などの原因となるウイルス「HTLV1」をテーマにしたシンポジウムにおいて、長崎県が全国に先駆けて取り組んだ母子感染予防対策を紹介した。また他の専門家と感染予防や患者・感染者への相談、全国の診断、治療体制の在り方について意見を交換した。
福島卓也・講師、 松尾真穂・医員	肺真菌症を合併したALL「L-AMBでコントロールしながら同種造血幹細胞移植を施行」	ミクスOnline (特別版) ※エルゼビア・ ジャパン(株)作成	2011年 4月発行	2011年3月9日～10日に愛媛県で開催された「第33回日本造血細胞移植学会」において、肺真菌症を発症あるいは悪化させることなく安全に同種造血幹細胞移植を実施できた症例を報告した。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
塚崎邦弘・准教授 福島卓也・講師、 他	【特集】がんばれ東北！ 長崎大学病院の医療支援	長崎大学病院 広報紙 ポン ペだより	2011年 5月発行 Vol.40	長崎大学病院より福島県立医科大学へ「原子力災害医療支援」派遣メンバー紹介。長崎大学病院の医師や看護師たちが率先して診療に取り組む姿を見せ、現場を勇気づけた。また専門的な知識とノウハウ、そして被爆地長崎からの協力が一体感を生み出し、信頼を築いた。
福島卓也・講師	【ASC－Hematologic Malignancies】 [poster Discussion Session #6524] [Oral Abstract Session #8000] [Oral Abstract Session #8001] 監修とコメント.	ASCO 2011 Highlight News P6-P11	2011年 7月発行	2011年6月3日-7日に米国イリノイ州シカゴにて行われた米国臨床腫瘍学会(ASCO)にて発表された3件の発表内容を翻訳監修し、血液内科医の立場からコメントを述べた。
宮崎泰司・教授他	MDS発症リスク 線量高いほど大	長崎新聞	2011年 7月15日	放射線影響研究所と長崎大学が被ばく線量が推定できるMDS患者のデータを分析し、被ばく線量が多いほど発症率が高くなることが公表された。
宮崎泰司・教授	永井博士没後60年企画展 「献身」テーマに	長崎新聞	2011年 8月9日(火)	長崎原爆で被爆しながらも救護活動に当った永井博士の没後60年を記念した企画展が長崎大学医学部基礎棟で始まった。 被爆後の長崎医科大学の様子を収めた写真など約60点の資料を展示している。
宮崎泰司・教授他	長崎大学病院は今 [養生所から150年] 危機対処へ増す存在感	長崎新聞	2011年 9月14日(水)	長崎大学病院150周年を受け、「放射線と感染症」と題して、原爆の晩発障害として、白血病や骨髄異形成症候群(MDS)についての発生状況や最新治療について感想と共に述べた。
宮崎泰司・教授他	～母子感染対策と新しい治療への期待～ 成人T細胞白血病(ATL) とはどんな病気？	朝日新聞	2011年 10月25日 (火)	成人T細胞白血病(ATL)について病気の特性や最新治療法および検査方法、これからの取り組みについて、長崎大学病院臨床検査部上平憲教授と対談形式で述べた。
宮崎泰司・教授	【Review2】骨髄異形成症候群治療 update.	The Word on Hematology. No.2	2011年 11月発行	骨髄性異形成症候群(MDS)の治療についての最新情報をまとめた。
宮崎泰司・教授	【Extended Abstract】 ボルテゾミブ試験投与 前後の薬理ゲノミクス 研究からTotal Therapy3 に対する高リスク患者 の特徴としてプロテア ソーム遺伝子PSMD4 過剰発現を同定	Hematological Cancer Express No.3	2011年 12月発行	様々な血液疾患についての最新治療情報(海外論文)の監修を行った。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
塚崎邦弘・准教授	特集2 成人T細胞白血病 有望な治療薬も登場間近で脚光風土病から全国病に	日経メディカル Cancer Review 第25号	2011年 12月20日 発行	成人T細胞白血病（HTLV-1／ATL）の最新治療情報及び医療小史の紹介。この研究に携わり且つ首相官邸に作られた特命チームメンバーのため紹介された。
宮崎泰司・教授、 塚崎邦弘准教授、 福島卓也講師、 波多智子助教他、	長崎フォーラム・報告	わいわいHome 通信No.7	2011年 12月発行	11月12日(土)に長崎大学医学部キャンパスにて開催されたNPO法人つばさの会主催の「血液がんフォーラム」にて、患者さま及びご家族に向けて血液がんと血液がんの病態についてなど、講演し、また各種分科会にわかれ、意見交換などを行った。
宮崎泰司・教授	医療最前線	長崎大学病院 広報誌 ボンベだより Vol.46・47	2011年 12月発行	「血液悪性腫瘍の治癒を目指して」と題して分子標的薬を用いた3種の治療の現状を紹介した。

○原爆・ヒバクシャ医療部門 腫瘍・診断病理学研究分野（原研病理）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
三浦史郎・助教	NHKスペシャル 封印された原爆報告書	NHKエンタープライズ	2011年 7月22日 (DVD化)	なぜ貴重な資料が、被爆者のために活かされることなく、長年、封印されていたのか？被爆から65年、初めて181冊の報告書全てを入手。調査に当たった関係者などへの取材から、その背後にある日米の知られざる思惑が浮かび上がった。
七條和子・助教	核兵器と原発は究極の暴力	長崎新聞	2011年 12月20日	ペトカウ効果が教える放射線には「しきい値」がないということ。また、長崎原爆について内部被曝も考えられた。これらは、原発を稼働させる意義にも影響を与えることとなる。

○資料収集保存・解析部 資料調査室（原研情報室）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
三根真理子・准教授	長崎大で被ばく医療視察	長崎新聞	2011年 4月27日	福島県立医科大副理事長らに原爆被爆者データについての説明を行った。
三根真理子・准教授	「21世紀のヒバクシャ」発売	長崎新聞	2011年 4月27日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会が執筆編集し、放射線を理解する入門書として注目されている。

○資料収集保存・解析部 生体材料保存室（原研試料室）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
三浦史郎・助教	NHKスペシャル 『封印された原爆報告書』	NHK エンタープライズ	2011年 7月22日 (DVD化)	なぜ貴重な資料が、被爆者のために活かされることなく、長年、封印されていたのか？被爆から65年、初めて181冊の報告書全てを入手。調査に当たった関係者などへの取材から、その背後にある日米の知られざる思惑が浮かび上がった。

○光学医療診療部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
磯本 一・准教授	ヘリコバクター・ピロリ胃発癌のメカニズム	ラジオNIKKEI	2011年 2月18日	ヘリコバクター・ピロリの胃発癌のメカニズムに関する研究成果のラジオ講演
磯本 一・准教授 山口直之・助教	手術数でわかるいい病院 食道癌内視鏡治療	週刊朝日	2011年 3月10日	食道癌内視鏡治療が全国でトップレベルの評価

○生活習慣病予防診療部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
川崎英二・教授	糖尿病の病診連携で活躍する長崎県の“連携医”専門医とかかりつけ医をつなぐ	メディカルトリビューン	2011年 10月6日	糖尿病専門医とかかりつけ医の中間に“連携医”を位置付けて治療の質向上と効率的化のための体制づくりの取り組みについて解説した。
川崎英二・教授	インターフェロン治療関連の1型糖尿病発症が増加	メディカルトリビューン循環器疾患版	2011年 10月27日	インターフェロン治療関連発症1型糖尿病患者の全国調査の結果明らかとなった発症増加要因について分析し、インターフェロン療法を施行する患者における脾臓関連自己抗体検査体制の整備の必要性について言及した。

○治験管理センター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
福島千鶴・准教授	週刊健康マガジン「COPD（慢性閉塞性肺疾患）の治療」	テレビ長崎	2011年 6月17日	COPDの治療について解説した。

○国際ヒバクシャ医療センター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
大津留 晶・准教授	緊急被ばく医療	長崎新聞	2011年 4月4日	被ばく医療崩壊ー福島で奮闘 長崎大の専門家医師らに講義、不安ぬぐう
大津留 晶・准教授	緊急被ばく医療	長崎新聞	2011年 4月11日	見えぬ恐怖現場緊迫 動き出す被ばく医療長崎と福島の連携 上
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	長崎新聞	2011年 4月22日	「放射線の影響覚悟」動き出す被ばく医療長崎と福島の連携 中

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	西日本新聞	2011年 5月1日	「内部被ばく長期調査を」長崎原爆資料館ホールで講演
大津留 晶・准教授	緊急被ばく医療	長崎新聞	2011年 5月11日	震災の地で 長崎大活動記2 他団体と福島医大を支援
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	毎日新聞	2011年 5月17日	「放射線を正しく知ろう」 被爆地長崎で講演会
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	西日本新聞	2011年 6月15日	二つのヒバク地 福島と長崎 中 前例のない医療に誇り
大津留 晶・准教授	緊急被ばく医療	読売新聞 長崎新聞	2011年 7月9日	中学校で放射線授業 ヒバクシャ医療協力会「正しく恐れて」
大津留 晶・准教授	緊急被ばく医療	読売新聞	2011年 7月21日	東日本大震災と医療 放射線正しい知識伝える
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	週刊東洋経済	2011年 7月23日	緊急被曝医療の実態 「『原発で死者100人』も覚悟した」
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	福島民報	2011年 7月31日	被ばく医療の系譜《下》 研究生かし「福島を守る」
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	読売新聞	2011年 8月4日	長崎、チェルノブイリの経験生かす 被ばく医療支える使命
熊谷敦史・助教	緊急被ばく医療	福島民報	2011年 9月5日	放射線の影響や救急医療を学ぶ 福島でシンポ

○薬剤部

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
北原隆志・准教授	薬剤師が行うフィジカルアセスメント	読売新聞	2011年 7月21日	薬剤師が行うフィジカルアセスメントについて説明を行った。

○離島・へき地医療学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
前田隆浩・教授	「奈留病院を有床診療所化に」 五島市医療提供体制のあり方検討委員会中間報告	長崎新聞	2011年 7月21日	五島市医療提供体制あり方検討委員会が会合を開き、奈留病院を有料診療所とし、富江病院を現状維持とする中間報告書をまとめた。
前田隆浩・教授	「奈留病院診療所化提言へ」 五島市医療提供体制あり方検討委員会最終報告	長崎新聞	2011年 12月28日	五島市医療提供体制あり方検討委員会が奈留病院を有料診療所化とする最終報告書をまとめた会合を開いた。

○へき地病院再生支援・教育機構

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
調 漸・教授	被災地の現状 医師らが報告 「長崎に今できること」	西日本新聞	2011年 5月9日	東日本震災で被災した福島での診療にあたった県内の医師ら8人が、市民を対象に現地の状況を報告する長崎市の市民公開講座の紹介 調 漸教授講演

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
調 漸・教授 (へき地病院再生 支援・教育機構)	インタビュー 「選択の自由」一定の規 制も	長崎新聞	2011年 5月15日	医師の都市部偏在の問題について の臨床研修制度等の是正策の提言
へき地病院再生 支援・教育機構	「地域が守る医療」 テーマ	西日本新聞	2011 年 5月18日	医師不足により崩壊の危機にある地 域医療について学ぶ平戸市の市民公 開講座の紹介 調 漸教授講演
へき地病院再生 支援・教育機構	平戸市生涯学習連携講 座「地域が守る医療～兵 庫県丹波地区の住民の 取り組み」	西日本新聞	2011年 5月20日	上記の平戸市の市民公開講座の開催 予告
へき地病院再生 支援・教育機構	「患者と医師 相互理解 を」平戸・生月地域医療 考える講演会	長崎新聞	2011年 5月25日	上記の平戸市の市民公開講座の開催 報告
調 漸・教授	「佐世保に救命センター を」	読売新聞	2011年 8月25日	「佐世保・県北地域医療のあり方検 討会」にて県内3カ所目となる救命 救急センターの設置を求める中間報 告を提出
へき地病院再生 支援・教育機構	[お知らせ]全国離島地域 医療サミットin徳之島	徳州新聞	2011年 9月12日	徳之島で行われる、離島・へき地医 療の一線で活躍する医師や識者を招 いてのサミットの紹介 座長・パネリストとして調 漸教授、 中桶了太准教授参加
へき地病院再生 支援・教育機構	地理的不利改善への一 歩ー徳之島での離島医 療サミットー	奄美新聞	2011年 10月10日	上記の徳之島のサミットの開催につ いてへき地医療に携わるそれぞれの パネリストの取り組みの発表を報告
へき地病院再生 支援・教育機構	離島医療サミットin徳之 島	徳州新聞	2011年 10月10日	上記の徳之島のサミットのプログラ ム等、開催報告 離島の医療問題を包括的に考える初 のサミットについて言及
へき地病院再生 支援・教育機構	長大病院は今 [養生所から150年]地域 医療	長崎新聞	2011年 9月19日	平戸市民病院での研修医の受け入れ や情報技術の活用等で地域医療を担 う人材を育てようとする長崎大学、 へき地病院再生支援・教育機構の取 組みの紹介
へき地病院再生 支援・教育機構	「地域医療とケア」を考え・ 体験する夏の合宿企画	平戸市立病院 広報	2011年 10月15日	九州内外の医師、医療関係者、医学 生等が参加し、実習や講演を通して 地域医療を皆で考えるへき地病院再 生支援・教育機構主催の夏合宿の開 催報告
へき地病院再生 支援・教育機構	「求む！地域医療支える 医師」	NHK 長崎ニュ ース 見んと！ 長崎	2011年 9月8日	上記の夏合宿での度島診療所の・田 医師の講演紹介・濱田医師の度島診 療所における地域医療の取り組みにつ いて紹介
調 漸・教授	地域と世界の医療に貢 献する人材を	研修医通信	2011年 2月号	調教授が自らの医師としての半生、 理事としての活動、へき地機構の理 念・取り組みを通して若手の医師た ちに送るメッセージをインタビュー 形式にて掲載
調 漸・教授	「漢方特集／人に優しい 漢方は地域医療でも有用」	日経メディカ ル	2011年 5月号 別冊付録	医療における漢方の処方の有用性・ 患者にとっての利便性の高さから、 今後の西洋医学との関係性をより深 めていく期待を込めた提言

○がん診療センター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
芦澤和人・准教授 他	市民公開講座 長崎新聞健康セミナー2011	長崎新聞	2011年 6月20日	がん医療に関する社会的啓蒙
芦澤和人・准教授	がんサロン	長崎新聞	2011年 7月4日	がん医療に関する社会的啓蒙
芦澤和人・准教授	長大病院は今：がん医療	長崎新聞	2011年 9月17日	がん医療に関する社会的啓蒙
芦澤和人・准教授 他	長崎県がん診療連携拠点病院 県民公開講座 「がんについてよく考えよう」	長崎新聞	2011年 10月3日	がん医療に関する社会的啓蒙
矢野 洋・助教	がんの地域連携パス	FM長崎「サタデーチャットボックス」	2011年 10月8日	がん医療に関する社会的啓蒙
芦澤和人・准教授	長崎大学病院がん診療センター	長崎新聞 とととて	2011年 11月号	がん医療に関する社会的啓蒙
芦澤和人・准教授	がんの地域連携パス	KTNテレビ長崎 週間健康マガジン	2011年 12月9日	がん医療に関する社会的啓蒙

○先端医育支援センター

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
佐藤克也・講師	プリオン病患者の新規診断法の開発	長崎新聞	2011年 2月1日	プリオンという感染症の感染予防となる